

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471200584		
法人名	社会福祉法人登米市社会福祉協議会		
事業所名	認知症高齢者グループホームほほえみ		
所在地	宮城県登米市石越町南郷字新石沢前47番地3		
自己評価作成日	平成27年 9月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>行事(夏祭り、長寿を祝う会等)を通して家族の方だけでなく地域の方々にも気楽に来ていただける機会を作るだけでなく、地域のお祭りや行事等にも積極的に参加し、家族や地域との繋がりを大切にしております。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成27年10月16日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは、のどかな田園風景の一画にある平屋の建物である。背景は一面の田圃で、同一敷地内に、特別養護老人ホームとデイサービスの施設があり、入居者同士の交流も多い。職員は、資格取得への挑戦が意欲的でありその結果は待遇にも反映され、やり甲斐を感じて頑張っている。運営推進会議は、議事録からも充実状況が確認できる。入居者の思いに寄り添った晩酌や毎晩の足浴等、心温まる支援が見られる。定期的なボランティアの来訪や出前講座の実施を通じた地域交流、市の委託事業(介護家族支援レスパイト事業)等への積極的な取り組みは、高齢者福祉に対するホームの姿勢を表している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所:グループホームほほえみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年度の外部評価で指摘され、今年度理念の見直しを行い、日々実践している。	職員全員で検討し、本年4月に「私たちは、一人ひとりが毎日を笑顔で過ごせるよう寄り添うことを第一に考えます」の新たな理念をつくった。ケアのポイントを「笑顔」において、毎月のミーティングで振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には出来るだけ参加し、GHの行事にも地域の方々に参加して頂いている。	毎年秋に行なわれている石越祭りの見学や、ホームの夏祭りへの地域の方々の参加がある。かつて住んでいた地区の敬老会に参加する人もいる。婦人会等の要請で認知症等に関する出前講座も実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「介護110番」の窓口を設けて相談を受け付けております。また、地域の方々の依頼があれば「認知症」についての出前講座を行っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回市や包括支援センター、地域の代表の方や入居者の家族の方にも参加して頂き、有意義な意見交換を行っております。	奇数月の下旬の木曜か金曜日に開催している。会議は、双方向の活発な話し合いが行なわれている。委員からの提案で、ヒヤリハットの発生状況も報告に含めることとし、11月の会議から実施する事としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の職員や包括支援センターの方に参加して頂いたり、市よりの委託事業「介護家族支援レスパイト事業」の受け入れも行っており、良好な協力関係を築いております。	運営推進会議を利用して、相談している。研修の予定や、セミナー等の開催情報は、その都度地域包括センターや市の担当部門から得ている。レスパイト事業は、今年度2名の実績となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみとし、昼間は全ての窓やドアを解錠しており、ベットの柵等のいかなる身体拘束も行っておりません。	車椅子の入居者に、食事の際は椅子に移乗するように勧めているが、本人の要望で車椅子の状態での食事となっている。帰宅願望のある人もいるが、特に施錠等の対策はとっていない。地域住民の温かい見守りもある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり、ミーティング時に自分たちのケアの見直しを行い、常に虐待が見過ごされる事のないよう注意を払っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当される入居者の方はありませんが、研修等で学んだ知識をミーティング時に勉強しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者と計画作成担当者で対応しており、何度か自宅に足を運び、入居者やご家族に対して、十分な説明を行い、理解・納得をして頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に第三者委員の説明を行い、ご家族が来所時には情報交換や意見、ご要望をお伺いしております。晩酌を続けたいという利用者の要望で毎日夕食時にお酒を提供しております。	家族会は結成していないが、運営推進会議に家族代表も参加しており、そこでの提案がある。毎日、夕方に散歩させて欲しいとの要望を介護計画に追加している。他の入居者にも声掛けして一緒に散歩する時もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っているケアカンファやミーティングで意見を出し合い話し合いを行っており、自分たちで解決できない事案は本部に相談し解決を図っている。	職員の提案で、私服をユニホームに統一した。職員の要望は、管理者の判断で対応可能な範囲(10万円以内)は直ぐに実現している。ホームの屋根の老朽化が目についたので、修繕を本部に提案中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度により職員個々の状況が把握出来ており、働きやすい職場環境を目指しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や講習会がある時には参加して頂ける様に努めて参加して頂いております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県のGH協や登米市の介護保険事業者連絡協議会に入会しており、他の入所施設との交流や情報交換の機会が増えて、自分たちのサービスの質の向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から何度か自宅に伺い、本人に納得して頂くよう会話の機会を設けたり、入居してからは気軽に話しやすい環境作り(時には職員と2人だけの時間)を行っております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から何度か自宅に伺い、家族の要望・相談を聞く。また、入居後も話しやすい雰囲気作りを行い、どんな些細な事でも相談できる信頼関係作りに努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初めの段階で家族の要望や出来る事、自分たちの出来る事、出来ない事を話し合い、本人にとって一番良いケアを行うために他のサービスや社協内の他の施設との協力体制を取ったケアを行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の皆様も職員も同じ家族の一員として、皆さんに役割を持って頂き、出来る範囲で手伝って頂いております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事に参加して頂いたり、面会時には居室でゆっくりと一緒に過ごして頂いたり、毎月家族にはGHの近況を「お便り」を通して連絡したりと、良い関係を築いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を頂き、本人が馴染みにしてきた美容院に出かけたり、家族と一緒に外食、買い物等行っております。	娘さんの来所時に必ず外食する人、起床したらコーヒーを飲むの人もある。1日のリズムに拘りがあり、起きたらテレビを見ながらの新聞読み、その後に髭を剃る人もいる。その様な一人ひとりにキチンと支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各人の趣味や興味のある事を把握し、毎日の生活の中で入居者同士の橋渡しに努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了するのは、他の施設入所か病院に入院時のみですので、他の施設が同じ社協の施設であったり病院であれば様子を見に行っております。退所時家族にはいつでも相談して下さいと話をしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の方々の希望や要望は、散歩やお茶を飲みながら一対一の時間を作りゆったりとした時間の中で聞いています。また、月に1度傾聴ボランティアの方に来ていただき、お話を聞いて頂いております。	「心の元気サポート会」の傾聴ボランティアが毎月ある。2名の方が来所し1時間程度の傾聴となっているが入居者の反応はそれぞれである。職員が日常の会話から感じ取った思いは、介護計画に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より家族や本人より情報を収集し、入居者の方の生活歴や思いを把握しケアに努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の流れを把握し、毎日の記録を個人ごとのケース記録や日誌に記録し、全職員で情報の共有を行い、現状の把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が本人、家族の意向を聞きケアカンファレンスで話し合い、ケアプランを作成している。定期的な見直しを行い家族の同意を得ている。	計画は、3か月毎に見直している。家族の要望で晩酌を組み込んだり、下肢に浮腫のある人にフットマッサージを取り入れている。毎晩、足浴の人もいる。遠方で来所が困難な家族には電話で状況報告となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を個別記録に記入することで、職員全員で情報を共有することができ、実践や介護計画の見直しに活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同じ敷地内にある、デイサービスや特養等の他の施設と連携が取れており、お互いの交流を通してサービスの多様化に取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(敬老会等)に参加したり、地域の方にボランティアに来て頂き、歌や踊り等を楽しんで頂いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に本人や家族と話し合い、今まで通りのかかりつけ医の場合は家族対応で、GHの協力医の場合はこちらで対応できる事を説明し、選んで頂いております。	かかりつけ医の受診は4名で、家族による対応となっている。その際、入居者に関する情報は、口頭での説明となっている。現在、医師への情報提供用資料を作成中であり、早期の対応を望みたい。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化で看護師の指示を仰ぎたいときには、隣接されている特養やデイサービスの看護師に相談し、直ぐに病院受診を行い、入居者が適切な看護を受けれるように支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、入居者の方の情報を医療機関に提供し、入院後は出来る限り面会に行き、面会時には病院関係者と情報交換等に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は家族と話し合い、医療機関や隣接の特養への入所を支援しております。日頃から家族とは入居者の状態を報告し、状態に変化がある場合には話し合いの機会を持っており、段階的に合意を頂いております。	24時間の医療連携が困難なため、ホームへの「入所・退所にあたって」を定めて終末期に向けた対応について契約時に説明し、同意を得ている。具体的には、食事量の変化や歩行困難等の状態になった場合には、家族と相談し決めている。看取り実績は無い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルは全職員が理解しており、訓練も定期的に行う避難訓練時にAEDの研修も行っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練時(夜間想定)の訓練も含む)に、地域の方の協力を得て行っております。全職員が避難方法を熟知しております。	緊急時の地区の方々の協力は、見守りが主体である。ヘルメットの準備、居室入り口の表札を裏返しにして避難済みが判る、更に特養と共用でAEDを配備している。使用方法については、訓練済みである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の入居者の方に合った声がけ、主に「さん」付けで呼びかけております。排泄時や入浴時に介助に入る場合にはプライバシーを損ねない様に気を付け対応しております。	その人に合った対応をしている。排泄時に、目を離すと直ぐに立ち上がり座位を保てない人の場合は、絶えずドアの前で話し掛けながら、対応している。耳の遠い人には、耳元で声掛けし、周りの注目を避けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方々と日頃から信頼関係を築く努力をしており、入居者の方が話しやすい雰囲気や環境を心掛けております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人の生活のリズムを把握し、その方のペースで穏やかにのんびりと生活して頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日気持ちよく過ごして頂くために、自分で洋服等が選べない方や洗顔が出来ない方にはお手伝いをし、季節に合った身だしなみにして頂くようにお手伝いしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	特養の栄養士が作成した献立を参考に入居者の方々の希望にあった献立を提供しております。下ごしらえや後片付け等手伝って頂ける事は、職員と一緒にしております。	希望食で人気があるのは、刺身と寿司である。誕生日には、本人の好きな食事となる。環境を変えてホームの広場で芋煮会をやったところ、普段は食の細い人が、芋煮やおにぎりのお代りをするなど好評であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた水分量や食事の摂取量に気を付け、十分な水分や栄養が摂取出来る様に努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は歯磨きや入れ歯の洗浄を、自分で出来る方は見守りで、介助が必要な方は職員が対応して行っております。また、歯科医による口腔ケアの指導や診察を行っていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表で個々の排泄パターンを把握し、職員が誘導や声がけを行い、自立に向けて支援を行っております。	チェック表による早目の誘導で、トイレでの排泄の習慣化に取り組んでいる。夜間は、おむつを使用し熟睡したい、との希望者があり、それを尊重しているが、排泄パターンによる夜間対応は実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や水分を十分にとって頂く事や、毎日牛乳を飲んで頂く等、個々に合わせた予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望に合わせて入浴日や時間帯を決定しております。入浴の嫌いな方にも声がけをし、納得して入浴して頂けるよう話をしてから入浴して頂いております。	デイサービスでの午前中入浴の習慣から、ホームでの入浴も午前を要望されそれに対応している。そのことから、午前入浴の希望者が増えている。入浴拒否が続いた場合に、息子さんに来て頂き納得する人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間は本人の意思に任せております。お昼寝も本人の生活習慣として定着している方には、居室の温度管理等行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は常に服薬管理綴りで入居者の方の薬について把握しており、服薬時には個々に手渡し、飲み込みを確認しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人に合った役割を持って頂いたり、毎晩の晩酌を楽しんで頂いております。気分転換として散歩、ドライブ、買い物に出かけ、楽しんで頂いております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者一人一人に希望に沿い、天気の良い日には敷地内を車椅子の方も一緒に散歩しております。季節の行事として初詣や桜・蓮の花等見学にも出かけ季節感を感じられるよう支援しております。	四季折々の外出の他に、毎月何らかの行事を計画し、その担当者を決め実施している。食材等の買い物の際に、声を掛けて希望者が同行している。隣接の特養に、毎月お菓子屋、パン屋が開店しており、入居者の楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いをお預かりしており、外出時や買い物に出かけた時には本人がお金を持って買い物ができる様に支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自らかける事が出来ない方が多いので家族と話したいと言われた時には職員が番号を押して受話器を手渡しております。また、年賀状は職員がお手伝いをして書いていただいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の清掃をこまめに行い、広い窓からは光や風を適度に取り入れ、エアコンで温度調整も行っております。	入居者の中には、窓からの風の取り入れを喜ばない人もおり、主としてエアコンによる温度調節となっている。食堂兼リビングは、男性入居者が毎日モップ掛けをして清潔感を維持している。全体的に質素な感があり、季節感を取り入れる等の工夫を望みたい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間でも席の場所を工夫し、気の合った方々で座って頂いたり、廊下や玄関等に椅子を置き気の合った方々で話したり、一人になりたい時には一人になれる空間の工夫を行っております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や道具を持って来て頂くようお願いしております。また、写真やカレンダー等を飾り本人が心地よく過ごされる工夫をしております。	各居室は、職員が毎日掃除している。居室の環境づくりは、男女それぞれの特徴はあるが、その人なりの満足のいくものとなっている。孫の描いた絵が誇らしげに飾ってある居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、手すりも設置されております。トイレ等は大きな文字で表示しわかりやすくしております。		